

- Priawandiputra, W., Kasagi, T., & Nakamura, K. 2017. Variation in Flowering Plant-Bee Linkages Following Experimental Restoration of Satoyama Paddy Fields. *International Proceedings of Chemical, Biological and Environmental Engineering* 107: 1-9. ISSN: 2010-4618, DOI: 10.7763/IPCBE.2017.V102.1
- Sugawara, T., Watanabe, K., Takaso, T., Tabata, M., & Shimizu, A. 2016. Incompatibility and pollination of distylous *Psychotria serpens* (Rubiaceae) in the Ryukyu Islands, Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 67(1): 37-45. ISSN: 1346-7565. DOI: 10.18942/apg.KJ00010238485
- Wei, M. S., Chen, Z. H., Ren, H., & Yin, Z. Y. 2009. Reproductive ecology of *Rhodomyrtus tomentosa* (Myrtaceae). *Nordic Journal of Botany* 27(2): 154-160. ISSN: 0107-055X, DOI: 10.1111/j.1756-1051.2009.00137.x
- Yamaji, F., & Ohsawa, T. A. 2015. Breaking-bud pollination: a new pollination process in partially opened flowers by small bees. *Journal of plant research* 128(5): 803-811. ISSN: 0918-9440, DOI: 10.1007/s10265-015-0741-8
- Yamaji, F., & Ohsawa, T. A. 2016. Field Experiments of Pollination Ecology: The Case of *Lycoris sanguinea* var. *sanguinea*. *Journal of Visualized Experiments* 117: e54728. ISSN: 1940-087X, DOI: 10.3791/54728
- 吉田浩史・八木剛. 2016. 神戸市の注目すべき双翅目および膜翅目の記録. *きべりはむし* 38(2): 21-25. ISSN: 1884-9377

### ヤマトアシナガアリの腐倒木営巣例

#### Example of rotting tree nesting of *Aphaenogaster japonica*

ヤマトアシナガアリ *Aphaenogaster japonica* Forel, 1911 は北海道から屋久島まで見られ、林縁や林内の土中、岩のすき間などに営巣するとされる種である（日本産アリ類データベースグループ, 2003 ; 寺山ら, 2014）。

筆者は本種を含む奈良県内のアリ相を報告したが（池田ら, 2020）、その後写真を整理していた所、2014年5月22日15時頃に、奈良市中町近畿大学奈良キャンパス北西部の林にあった腐倒木を割った中に本種のコロニーと、同コロニーが作ったと思われる坑道が現れている写真を確認した（図2）。樹種は記録が古く記憶していないが、落葉広

葉樹林内であり、白色腐朽菌が見られるので、コナラかクヌギのような落葉広葉樹である可能性は高い。



図 2 ヤマトアシナガアリのコロニー

本種は、日本産アリ類データベースグループ (2003)、寺山ら (2014) には記載がないが、岩手県遠野市でのツキノワグマの餌資源調査においては標高約 400~1200m のアカマツ・カラマツ・スギを主とした針葉樹林及び、コナラ・ミズナラ・シラカンバの主とした落葉広葉樹林での枯死材 (残材・倒木・枯死木の総称) への営巣が普通に確認されており (佐藤ら, 2014; 安江ら, 2015),

安江ら (2015) では地表・土の中よりも枯死材での出現率が高くなっていた。撮影された枯死材は低地で一般的なクヌギやコナラを主体とした里山林 (桜谷, 1999) にあったことから、本種の枯死材への営巣はより一般的であることが示唆される。他にも本種に関して同様の報告がされている可能性はあるが、あまり知られていない事例のようなのでここに報告する。

#### 引用文献

- 池田健一・葛西弘・合田愛・村上教介・石原竜・仲村華人・澤島拓夫. 2020. 近畿大学奈良キャンパス周辺におけるアリ相. 近畿大学農学部紀要 53: 46-70. ISSN: 2189-6267
- 日本産アリ類データベースグループ. 2003. 日本産アリ類全種図鑑. 196pp. 学習研究社, 東京. ISBN: 9784054017924
- 桜谷保之. 1999. 近畿大学奈良キャンパスの生態系の概観. 近畿大学農学部紀要, 32: 69-78. ISSN: 0453-8889
- 佐藤愛子・青井俊樹・安江悠真. 2014. 岩手県遠野市におけるアリ類の生息状況: 夏期のツキノワグマの餌資源としての視点から. 岩手大学農学部演習林報告, 45: 81-97.

ISSN: 0286-4339

寺山守・久保田敏・江口克之. 2014. 日本産アリ類図鑑. viii, 278 pp., 図版 48 pp. 朝倉書店, 東京. ISBN: 9784254171563

安江悠真・青井俊樹・國崎貴嗣・原科幸爾・高橋広和・佐藤愛子. 2015. 夏期のツキノワグマによる針葉樹林の利用とアリ類の営巣基質としての枯死材との関係. 哺乳類科学, 55(2): 133-144. ISSN: 0385-437X

## 奈良県と東京都におけるクサイチゴハケフシの初記録

First records of galls of *Rubus hirsutus* formed by *Phyllocoptes* sp. in Nara prefecture and Tokyo

クサイチゴハケフシはキイチゴハモグリダニ *Phyllocoptes carilubi* Keifer, 1938 あるいはその近縁種によりクサイチゴ *Rubus hirsutus* Thunb. の葉に形成されたと考えられる虫こぶ (虫えい) で (徳田他, 2015)、かねてからインターネット上で報告されていたが、徳田ら (2015) によって初めて文献上で佐賀県から報告され、新称提唱された。正式に新称提唱される以前に同名を称した ISSN のない雑誌に記された神奈川県の記事 (大浦, 2014) があるものの、その後文献上の記録はないものと思われる。

筆者は奈良県と東京都で同虫こぶを確認しているので、ここに報告する。

多数の虫こぶ, 奈良県奈良市中町近畿大学奈良キャンパス, 10.I.2013, 筆者撮影 (図 3).  
多数の虫こぶ, 東京都都渋谷区代々木神園町代々木公園, 22.III.2020, 筆者撮影 (図 4).

虫こぶは注目度が低いためか、専門家以外による文献上の報告は少なく、インターネット上で確認された報告についても貴重だと思われるので、ここでまとめておく。